

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174300481		
法人名	有限会社 まごころ		
事業所名	グループホーム まごころ		
所在地	埼玉県本庄市西富田653-1		
自己評価作成日	平成 27 年 7 月 15 日	評価結果市町村受理日	平成27年 10 月 6 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=1174300481-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成 27年 9 月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている皆様の一人ひとりの気持ち、状況に応え、ご本人、ご家族に望まれている暮らしに少しでも近づいていけるよう日々支援しております。明るくゆったりとした空間づくりを目指し毎日、温かい食事を提供し笑顔で楽しく生活して頂けるよう努めています。常に安全・安心な生活のケアを続けています。AEDを設置し、緊急時に対応出来るよう研修を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い地域で、平屋建て、2ユニットの開設11年目の事業所である。地域との付き合いを大切に、地域行事や、外部研修に積極的に参加。地域住民との交流も多い。職員は身近にいて、利用者のお話を聞き、笑顔で接している。利用者の表情は穏やかで、落ち着いている。明るく、和やかな雰囲気の中で、のんびりと、フロアで、長時間過ごされる。食事面では、「温かい食事を提供する。」「週に3回は魚料理にする。」「夕食は揚げ物を控える。」等々、細かい気配りがなされ、五感を刺激される料理が配膳される。職員と利用者が、同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るような雰囲気作りも大切にしている。医療面においては、近隣の病院との連携がとれていて、緊急時の対応も可能となっている。日々の関わりでの気づきで、医療機関と連携をとっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は常に掲げてあります。日々確認し、共有出来るよう努力しています。	理念は玄関に掲示して日々確認。会議の際に読み合わせをしたり、話し合いをしている。「生活習慣を大切に作る。」という目標には入居前の暮らしを把握、個々に合った生活を提供できるよう、質の高いサービスを実践。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方とは良い関係を築いています。作物を頂き料理して皆様に食べています。地域の納涼祭も毎年参加しています。	自治会に加入し、地域行事に利用者と参加。顔馴染みとなり、頂き物をしたり、運営推進会議に参加してもらうような関係となっている。ボランティアさんとも顔馴染みで、利用者は来所を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時見学を受けており、された方には説明等を行っております。ボランティアの方々ともグループホームを理解して頂けるようお話ししています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、近隣民生委員、ご家族に通知し参加をお願いしています。その場でご要望、ご意見等を伺い今後に生かせるよう努めております。	開催日を工夫することで、自治会長、民生委員、家族、市町村担当者、隣のご主人等それぞれの立場から参加。多角的な視点からの意見交換ができる有意義な会議となっている。評価結果は家族へも郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回必ず市町村担当者の方出席して下さっています。また、市役所に行った時なども相談に乗って頂いています。	書類提出時に訪問し、相談や担当者から電話をもらう等頻りに連携をとっている。事業所パンフレットも窓口に置いてある。年8回予定のケアマネ会の研修、会議、懇親会に参加し、他事業所とも連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については国道に近いということもあり、ご家族の理解と了承を頂いております。身体拘束一切行わず研修等でも確認と理解しています。	拘束に関する基本的勉強を行い、意味を確認し理解している。職員自身が気づかないで話している言葉を不適切と感じた時は直接注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待関連法については研修を通して学んでいます。職員間でも話し合いを行うこともあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を充分理解しているのは限られた職員のみになっています。制度について活用されている方が身近にいないため、研修等を通し理解していけるように努めていきたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはゆっくり、理解して頂けるよう充分説明を行ない、質問等にも丁寧にお答えし納得して頂けるように対応を行なっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に沢山の方がいらっしゃいますのでその都度お話しをさせて頂いています。ご要望、ご意見に添っていけるよう職員間で話し合い行なっています。	面接時に直接意見要望を聞き、職員間で検討改善し、運営に反映させている。「面会時にクーラーが寒すぎる。」との声には席を移動してもらう等の対応をし、温度設定は座っている利用者に合わせる様注意している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各ユニットで職員会議を行ない自由に意見を言えるようにしております。管理者は代表者に職員の要望を伝えることにしている。	アンケート、面談は行っていないが、ユニット毎に会議を行っている。会議は「おむつを無駄に使っていないか?」「立位が取れない時の対応は?」等細かなことを話し、意見を出し合う雰囲気である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与アップ実施行ない職員がやる気を持って勤務している。外部研修の費用負担し資格取得にも協力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修実施し、知識の向上を目指している。外部への研修も推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会会員として支部会、研修会に参加し交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時には情報を頂き、必ずご家族ご本人とお会いし、お話をさせて頂いております。いつも和やかに対応しており、信頼関係構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の心配事不満なことをお聞きすることで少しでも不安を軽減出来るよう説明を行ない、ご要望に応えられるよう、努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族のニーズに応えられるよう、よくお話しをお聞きし適切な支援を行えるよう努めております。また、必要に応じ他のサービスも紹介しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの状況に合わせその方の出来る事を見極め、自分の役割ややりがいを感じて頂けるよう支援しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の暮らしの様子等を毎月 月次として家族に報告、写真も送付しています。面会時や電話でも変化や要望お伝えし話し合っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院に行かれる方、通院される方いらっしゃいます。また、昔からの知人ご近所のお友達も顔を見に来られています。	馴染みの友人、知人が訪ねてきたり、家族との外出を楽しみにしている利用者もいる。年賀状、暑中見舞いを職員と一緒に書いて送る等、一人ひとりの生活習慣を大切に、継続的な交流が出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性や思いに沿って入居者間の円滑な関係を継続していけるよう全職員が心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族との連携をとり、入院された場合でもお見舞いに伺い状況の把握に努め、退去の場合には心配されるご家族の相談に乗り支援を行なっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの方の思いの伝え方が違うのでその方の思いに気付けるように日々支援を行ない、その方に合った対応を心がけています。	日々の関わりの中で言葉や表情、動きからいつもと違う、ちょっとした変化に気づくように心掛け対応。「笑わなくなった」「足どりが良くない」「夜中に起きてくる」等を医師に相談。薬を調整し体調が良くなってきた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されるまでの状況、生活歴を把握し、職員間情報共有し、より良い暮らしをして頂くため、支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人の生活習慣、リズムを大切に、出来る限り本人の望まれる生活を送って頂けるよう努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のケアにあたっている職員間で気付いた点、改める点等、その都度話し合いカンファレンスを行ない、介護計画を作成している。	ユニット会議で、職員の気づきや、改善点を話し合い、6ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。変化時にはモニタリングに基づいて見直している。本人、家族の思いや、意見は日頃の関わりの際に聞き反映させる。	利用者個々の課題やケアについて話し合い、介護計画が作成されている。今後も利用者個々の把握を深め、対応記録をとり、よりその人にあった介護計画が作成されることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録、業務日誌、記録表を毎日記録し、情報を共有している。申し送りではその日の変化等を報告し体調変化や気付いたことを話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人ひとりの要望やご家族の望まれることに出来る限り応えられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に傾聴ボランティアの方が来訪され、皆様と一緒に様々な事をされています。演奏会等やって頂き楽しく過ごされています。地域の納涼祭は毎年参加しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の定期的な往診を受けています。疾病により以前よりのかかりつけ医に通院されている方もいらっしゃいます。急な体調不良時には協力医の指示に従い他科を職員と受診することもある。	月2回の往診を受けている。体調不良の時にも往診医に相談し、指示をもらう。入院の際には病院紹介をしてもらえる。本人や家族が希望するかかりつけ医の受診は家族対応となっているため普段の変化を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ではあるが看護師の配置があり、色々な状況において指示や説明を受けています。協力医の看護師も相談に乗って頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行ない、看護師や相談員と連携し早期退院に向け相談支援ご家族と共に進んでいます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	“重度化した場合における対応に係る指針”については入居時ご家族に説明し、了承をとってあります。ご家族やご本人の意向に添えるように出来る限りの対応をしております。	終末期にあたり、利用者、家族の希望を大切にして医療機関と連携をとり、慎重に対応している。ギリギリまで事業所で対応、医師の指示により入院し、その後亡くなった利用者はいる。事業所内での看取りはまだない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習終了者が多くおります。AEDの設置もあり、使用方法等研修にて行っています。適切な対応が出来るよう施設内研修を行なっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立会いのもと消防訓練を行なっています。想定を変え対応出来るよう職員全員に行っています。	消防署の指導により、避難、消火器の使い方などの訓練を行っている。地域の協力体制は、声を出して近所から来てもらえるよう、運営推進会議でお願いしている。消防本部が近くにあり、備蓄品も用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	原則 入浴は一人ひとりです。同性介助ご希望の方にも対応しています。排泄介助等もさりげない声かけ心がけ実施しております。	個人を尊重した、さりげない声かけや言葉遣いを徹底するなど、勉強会で話し合って対応している。排泄はパターンを把握し、声をかける。入浴は一人ひとりがゆっくり入ることができるような工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方の話には耳を傾け、ゆっくり聴くよう努めています。言葉で表すことが出来ない方は、サインを見逃さないよう、気付けるようケアしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、時間で急ぐことなく入浴、食事されています。レクの参加もご自分で決められています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問カット受けられています。いきつけの美容院に行かれる方もいます。外出される時、きれいに化粧される方もあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食温かい食事を提供しています。皆様には喜んで召し上がって頂いております。行事や季節に合わせたものをお出ししています。	専任スタッフが調理。一人ひとりの力をいかながら利用者と職員と一緒に準備、食事、片付けをしている。おやつはユニット毎に計画して提供する。誕生日には自分の好きなものや食べたいものをリクエストする。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事メニューに努め、その方に合わせ工夫してお出ししております。水分量も記録し一人ひとりの状態に合わせてケアを行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合った方法でケアしています。見守り、半介助、全介助となっております。訪問歯科を受診されケアをされている方もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄にパターンを把握し、一人ひとりに合った対応を実施しています。トイレでの排泄を増やしていけるよう努めています。	身体機能に応じて、手を差し伸べたり、歩行介助をしている。紙パンツ、パット類も本人に合わせ、トイレで排泄出来るよう支援している。ほとんどの方が自立。立位のとれない方のみオムツ使用となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表記録しております。表を確認それぞれのパターンに合わせ、水分、食事を調整し排泄を促しています。主治医の薬を服用される場合もあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一人ひとりゆっくりとされています。いつも喜んで入浴して頂いております。タイミングで断られることもあります。時間をずらしたり人を変えたり工夫し入浴実施しています。	週に2回と決まってはいるが、希望があれば増やしている。心配事や、声掛けのタイミングが悪いと拒否される事もあるが、他の職員に変わったり、声かけを工夫して一人ひとり、ゆっくり入浴される。同性介助有り。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆様ご自分のペースでお好きな時に居室で休まれています。夜間もその方に合った介助を行ない、良眠して頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬情ファイルに個々の薬を確認できます。体調不良時には協力医看護師に相談し協力のもと対応しています。飲み忘れ、誤薬無いよう常に注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を把握し、その方に合った役割・お手伝いをお願いし、生活に張りを持って頂けるよう努めています。レクリエーションも自由参加にていろいろなものを提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	高齢化、身体機能の低下進み散歩や外出が難しい方が多くなりました。1対1での散歩、車でのお花見など出来る限りの支援を行なっています。ご家族と外食、日帰り温泉、お墓参りなどに出席される方もいらっしゃいます。	希望によりお天気の良い日に職員と出掛け。外出は1対1の散歩、車利用の花見、季節の洋服を選んだり、好きなおやつを買うなど。待ちきれなくて車の中で食べてしまうこともある。家族との外出、外食を楽しみにしている人もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとしてご家族よりお預かりしたお金は事務所で管理しています。ご本人より、欲しい物要望ある時に使用しています。お財布に少しのお金を持っている方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等、要望あれば対応しています。ご家族の声を聞くと笑顔になられます。年賀状・暑中見舞いなど毎年出されています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけ、毎日を送っております。また、安全に過ごして頂くための配慮に努めています。皆様の過ごされるホールは常に明るくゆったりとした雰囲気になるよう心がけています。	季節毎にフロアに作品を飾り付けている。職員が下絵を描き、皆でお花紙を小さく切ってまるめて貼ったものは、大きな作品となっている。90歳代の方が6名いるが、職員や他の利用者とお話をしてフロアで過ごす時間が長い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	温度、湿度に留意しご自分の好きな場所で自由に過ごして頂けるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居されている方のお好きなものを持って来られ配置しています。危険の無いよう配慮しております。	持ち込まれた仏壇、タンス、写真、思い出の品等は、危険のないように置かれ、利用者が居心地良く過ごせるように工夫されている。TVゲームが壊れるまで居室で楽しまれた方もいる。掃除も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアーバリアフリーとなっており、トイレ、廊下、浴室と十分な広さがあり、手摺りを使用されての歩行も可能です。ゆったり安全に生活して頂けるようになっています。		